

令和6年度 波佐見町総合教育会議 会議録

日時 令和6年11月29日(金)

10:00~11:45

場所 波佐見町役場 第1会議室

出席者：前川町長、福田総務課長
森田教育長、山下委員、馬場委員
富木委員
朝長次長、渡邊指導主事

1. 開会

福田総務課長

定刻前でございますが、皆さんお揃いですので、ただ今から、波佐見町総合教育会議を開会いたします。私、本日司会進行を務めます総務課の福田と申します。よろしく願いをいたします。この後は、着座にて進行させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、ここで開会に当たり波佐見町長前川芳徳が御挨拶申し上げます。

前川町長

それでは、改めまして皆様おはようございます。本日は本当にお忙しい中に、本会議にお集まり頂き、誠にありがとうございます。また委員の皆様方には日頃から本町教育行政の推進につきまして、ご支援ご協力を頂いておりますことに、改めて感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

さて1年も早いもので、もういよいよあと一月ほどを残すところになりまして、時の流れの早さを感じているところでございますが、教育を取り巻く環境は日に日に厳しさを増しているところはお存じのとおりでございます。溢れる情報の中で、子供たちがどうやって育っていくのかと非常に気になるところもございますし、また先立っては大変気になるところでございますけれども、町の教育と直接関係ございませんが、バス路線の廃止等が出されまして、本町の子供たちの今後の進学進路についても非常に危惧されるような状況でございます。それにつきましては、現在関係部署の方で関係各所との折衝しながら、町民の足の確保を図るということで全力で取り組んでいるところでございますので、詳細につきましてははっきりしてから、町民の皆様方にはお知らせをしたいと思っております。今日は貴重な時間でございますので、皆様方からの御意見を賜りながら、今後の波佐見町の教育行政について推進を図ってまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

福田総務課長

ありがとうございました。なお、本日、松尾委員は御欠席となっております

ますので、お知らせをいたします。それでは、ただいまから、協議事項に入らせていただきます。御手元に配付しています式次第に従いまして、協議を行いたいと思います。

3. 協議事項

(1) 今後の教育課題等について

福田総務課長

最初にこの総合教育会議についての内容について御説明をいたします。5ページに参考として波佐見町総合教育会議設置要綱を添付しておりますが、この総合教育会議は、平成27年4月に施行されました改正地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項の規定に基づき、全ての県と市町村に設置されているものでございます。協議事項については、設置要綱第2条に掲げておりますが、第1号に大綱の策定に関する協議とありますが、大綱については、令和4年度にこの総合教育会議で策定しており、今後は町の基本計画策定時に協議することとしておりますので、本日の議題にはございませんので、御承知おきください。

それでは協議事項について、教育委員会から原案並びに説明がありますので、よろしく願いいたします。

朝長教育次長

はい、それでは私から説明させていただきます。2ページをお願いいたします。令和6年4月1日時点でございますけれども、各学校の子供たちの人数でございます。これにつきまして住民基本台帳の登録でございますのです。現在の小学校の生徒数とは若干違うところがございます。御覧頂いてもお分かりになりますけれども、東小学校が1番少ないということがございます。途中太字で書いているところがございます。例えば中尾郷ですが、現在6名ですが、今後6年間で9人に増えると思っております。三股は今のところ1名しかいませんが、今後は2人が進学してくるかなあというところなんです。南地区ですが、岳辺田郷が12名ほど増えています。それと田ノ頭、稗木場も多くなっているというところで、ここは新築の世帯等、そういったところが関係してきているのかと思っております。住民が1番多いところの宿、折敷瀬でも増えてはいませんが、南小学校区が増えてきているというような状況でございます。

続きまして3ページをお願いいたします。過去55年からの各学校の推移を表しているグラフでございます。令和12年になったら、東小がとうとう100人を切るという数値推計が出されております。これにつきまして、町としましても東小学校区に移住定住政策として、空き家とか新築した場合には10万円定住奨励金をプラスする施策をとっていますが、なかなか伸びてきません。民間の住宅団地の開発とかができたら、ここの数字も改善してくるのではないかと思っております。中央地区ばかりの開発になっておりますので、ここらあたりが今後の課題かなあと思っております。

続きまして4ページを御覧ください。今後の教育課題ということになっております。簡単に1枚に纏めさせていただいておりますけれども、まず最

初に、学校施設の改修ということで、各インフラの整備で校舎の建て替え時期と今後の大規模改修の在り方ということで掲げております。今中学校が昭和51年に建っていますので、49年経過しております。東小学校が55年に建っておりますので、44年経過をいたしております。南小学校も58年に建っておりますので、41年経過。中央小学校が平成7年で29年経過しています。以前は、鉄筋コンクリートの耐用年数は50年ということと言われておりましたが、途中大規模改修を交えながら、国としては80年持たせなさいという長寿命化の方針を出されております。そういった中で、今後どういう形で、この学校の校舎自体の建て替え計画を持っていくかというのが、今後の波佐見町の大きな課題だなというふうに思っております。先般9月の議会で、こういった質問が出されまして、改めて教育委員会としても建物の維持経費、維持管理という面からの考え方を取り入れていかなければいけないんじゃないかというふうに認識をした次第でございます。

現在のところは、バリアフリー対策の方を進めておまして、エレベーターの設置が補助事業の関係でかないませんでしたので、簡易昇降機を設置する形で進めております。あと障害者用トイレについて、今現在設計等を進めているところでございます。

あと通学路の整備でございますけれど、中央小の町道横枕線が残っているような状況で、地主さんとの交渉も建設課の方では行っていただいておりますけども、まだ先に進んでいないような状況でございます。あと南小の八並病院付近の南部線でございますけども、こちらにつきましては計画的に進められているようですが、もうしばらくお待ち頂ければ全線開通できるものと思っております。

続きまして2番の学力向上でございます。もうここが1番の本町の課題に挙げられているところでございます。ここ数年、全国も県もそうですが、平均に達していないところが1番の課題でございますので、ここは学校を挙げて頑張らせていただいております。来年以降は良い数字を出そうと頑張っているところでございます。

続きまして3番の中学校の部活動の地域移行です。

福田総務課長

それでは教育課題については、それぞれの項目ごとに御意見を頂戴したいと思います。まず、1の学校施設の改修について教育委員会から説明があったところでございますので、意見交換をしながらということで進めさせていただければと思います。

自由に御発言していただいて構いません。よろしくお願いいたします。

前川町長

ちょっと良いのでしょうか。現在特に中央小の通学路整備の一区画が非常に目立っているような状況です。用地の関係で御相談が頂けていない状況でございますけども、これは先ほどの説明がありましたとおり、建設課の方で地権者の方と連絡を取り合ったりしている状況でございます。しかし、なかなか御理解を頂けていないという状況でございます。その他の関

係各位の方からも、本人さんと連絡を取り合ってもらっています。いろいろと鋭意努力をしているところでございますけども、いまだに解決には至っていないというところでございます。

それと折敷瀬のもう一つ内ノ波から西山さんの裏につながる町道第二西線ですが、あそこについても地元の方から、子供たちの通学の際に危ないので、用地は相談、提供できるから計画を進めてもらえないかという御相談もございまして、建設課の方で既に現場を見て大まかな概略の設計図といたしますか、できている状況でございます。確かにあそこはもともと圃場整備できた道ですので、道も狭く離合するときなど、子供たちが通る際にちょっと危険ということで、そういう御相談も頂いておりまして、用地等の御提供がすぐ頂ければ、なるべく早急に着手したい路線と考えてはおります。南小学校関係につきましては、南部線と言いますけれども、温泉から8分団の消防詰所の交差点までの用地買収と建物補償がほとんど進みまして、あとは工事をするだけでございますけども、あと数年ちょっと掛かりますが、完了する予定でございます。一応私が記憶しているところで、そういう工事の進捗状況でございます。

森田教育長 今の2点目の通学路ですが、渡邊先生あそこ通学路になっていませんか。今町長が言った二つ目の通学路。

渡邊指導主事 ファミリーマートの方に抜けていく道ですね。

森田教育長 たぶん県道に回っていると思うので、ちょっと確認したいと思っておりますけど、2年に一度通学路の交通安全について関係課と回っていますが、そこは上がってきていません。そういう利用状況があれば、当然そこは確認しないといけないと思います。

かなりの部分の補修等々やっていただいて、今最大が横枕1号線の残りの部分と、南部線ですが、南部線は昨日建設課長と話した際、8年度末を目途にということで作っていくということをお願いして、大変ありがたいなと思っています。横枕線については、子供、自転車、車が一か所に集まってしまっています。実際の小中学生が田んぼに落ちた事例が2、3例あるので、そういう状況等々を地権者の方にご理解いただきたいと思います。もう一つの横枕線、小熊会館に抜ける直線のところについては、今年度末までにほぼ工事が完了するというこのようです。そうすると、あそこだけが酷く目立つものですから、そういう周りからの情報提供を頂いて、柔軟に対処頂ければありがたいかなあと考えています。大きな事故が起きる前に何とかクリアできたらなというところは思っております。

前川町長 そうですね、そこは最終的には直接地権者のところに行って、話をする時もあるのかなと思っています。そのぐらい誠意を見せないと、なかなか前にも進まないのかなという思いもでございます。

先ほど言いました路線については、ひょっとして私の違いで通学路では

ないかもしれません。

森田教育長

ちょっと確認させてください。集合場所まで向かうため1人2人通っているかも知れません。

それと先ほどの校舎のインフラについては、次長からの説明があったように、あと5年、今の1年生までは全然大丈夫ですが、次の今の0歳から5歳6歳のところでは東小学校は99名ということになっております。統廃合の一つの目安とすれば、私たち自身は100名を切るということと、複式学級が開始したら考えていかなくはいけないかなあということは思っていました。東小学校さんが44年ということで、大規模50年でいえば大規模になりますが、こういう状況で、あえて東小学校を新築する必要があるのかという部分が大きな課題として出てくるのではないかと考えています。もう5年ぐらいしたときには、東小学校と中央小の統廃合について、提案をする時期が来るのではないかとということ、教育委員会内では考えております。中央小学校も300人ぐらいになりますので、合わせても今の中央小の子供たちよりも少ないという形になっていく現状です。それと南小学校は280人を維持していますから、いよいよ2小1中という、そういうことも考えていけないという、校舎の改修との関係から、統廃合の話も出てくるのではないかと私たちも考えているところです。

前川町長

元々の東小に戻るという感じですよ。元々東小が分かれて東と中央になったので、分かれたのは何年ぐらいですかね。

朝長次長

昭和51年です。私たちは小学校1年生は東小入学で、2年生から中央小になりました。

森田教育長

多分そうになっていくと思います。100人もいない東小学校を維持するのはなかなか難しいかなと思うし、中央小学校も逆に空いてしまうところもあることを考えると、いよいよかなと思っています。中央小の校区見直し等々については、もうこれ以上やってもなかなか変化がないというところですね。

馬場委員

20年近く前は、教育委員会の方針としては、東と中央の校区変更をするということを第1、それから永尾分校の閉校問題、この二つを大きく掲げていました。ところが、こうして時代が流れてくると、まず永尾分校問題はどうか、27年でしたかできました。経過から見ますと、地元の方々は反対、ところが、今から学校へ通わせる子供たちの保護者は賛成でした。だから、こういう問題が出てきたからですが、できるだけ穏便に進ませようと思ったら、今から通わせる子供たちの保護者さんたちを中心に話をした方が良いと思います。閉校問題のとき何回かさせてもらいましたが、やっぱり丁寧な説明が必要かなということを感じておりました。校区変更の問題はだいぶ考えて、町長は鬼木だからよく分かると思いますが、歩道が

鬼木に登るところまで来たら、校区変更の話合いをしましょうということで、投げ掛けてはいました。しかし、こっちはとにかく前の問題があったので、結局そこまでは突っ込みませんでした。地元の意見を尊重しようということで、できるだけそれには触れませんでした。井石の方はアンケートを取って半々で東小に移ってもいいよってことを言われましたけれども、鬼木の方は最初からバスだったので、それで鬼木は反対ということで、もう我々はタッチをしませんでした。その後も話は出てきませんでした。しかし、それから大分経ちましたので、今言われたように100名を切って、東小学校を存続させるのかというのは、ちょっと問題かなということを感じます。そういった時、町長が言われたように、昔東小が分かれ東小が移ってきた時のように、そういう形を今度は取っていくべきではないのかということが、今の現状ではないかということですね。それで時代が変わってきたなということを感じます。過去の経過をちょっとお話をさせてもらいました。

前川町長

中学校を造ってから50年近くですよ。かなり補修を重ねてきていますが、補修の上に、また補修ということを繰り返すようになれば、一つは更新ということも少しは頭の中に入れておくべきかと思います。やはり、あれだけの大きな建物となると、かなりの事業費になってくることを想定しておかなければと思います。もし建て替えとなると、今の学校の規模でいけば、何平米ぐらいの建物になってくるんですかね。

森田教育長

どうでしょうか。もう今長寿命化の部分がかなりスパンが短くなっている部分があるので、もう全面改修はなかなか今後は求められないところがあって、80年と考えれば、あと30年持たせないといけないようになっていくと、本当に部分部分でやっていくところがあるし、今中学校も計画的にやっているところがあります。ただ外壁が落ちてきていたりするので、そこから辺りは来年度予算辺りで改修するようにはしております。

前川町長

長寿命化に伴う支出が、毎年例えば2億とか3億となると、逆には建て替えた方が合理的じゃないかなと思います。ちょっと頭の中に入れておくべきかなというところもありますね。だから、そのためにやはり一気に財源となると、なかなか厳しいものがありますので、基金辺りも少し考えておかないといけないのではないかと思います。結構負担が大きくなるのかなと感じがします。

森田教育長

基金については同窓会の方からもアイデアとして出ています。10年ぐらい基金を貯めてということで、中学校同窓会の方からの意見としても今出ているようです。それが全面改修に繋がるものなのかどうかですけど。

前川町長

規模感として、大体どれぐらい事業費が掛かるでしょうか。もし建て替えとなったら。

森田教育長 生徒数からするとあまり変わりません。今の3年生からちょっと減るぐらいで370人ぐらいはいますので、事業費的なものはどれくらいになるかの計算はしていませんが。

前川町長 そういったものも、今後近隣のそういった事例があるのかを含めて、研究も少しはしておくべきかなとは思っています。

福田総務課長 他ございませんか。また最後に総括的な質疑の場を取りたいと思いますので、進めさせていただきたいと思います。

それでは、次の学力向上について追加の説明と協議事項があればお願いをいたします。

前川町長 今波佐見町のランクづけとか、県内でどういった位置づけになっていますか。

森田教育長 令和6年度は最も厳しかったですね。ここ3、4年とても厳しい状況にある中でも、厳しかったです。小学校でいうと中央小学校さんが、どうしても母数が大きいところが大変厳しい状況にあるものですから、波佐見町全体が下がってしまっています。東小学校さんは大体横ばい、県平均並みです。南小学校が良かったり悪かったりというところにあります。中央小学校さんが、どうしてもかなりの差で低いところがあるので全体的に下げています。中学校さんはほぼ県平均と同等というのがここ数年の現状です。全体的に大変厳しい状況にあるので、私自身も危機感を持ってやっているところでもあるし、逆に様々な支援等々を十分にさせていただいていることに対する感謝と、同時に申し訳なさがあります。予算要求の中では、是非今の取組について成果を期待しながら、維持をしていただきたいというところなんです。と同時に、小中学校に赴任されている先生方はかなり実力があるとても優秀な先生方が多いと思っておりますし、波佐見町の教育環境、あるいは波佐見町に対する好印象の中で、優秀な先生方が波佐見町に赴任したいという、人事上の嬉しい意見もたくさん頂いているのも現状です。徐々にという言い方は余り好きではありませんが、必ず成果が出るように、学校の方に働きかけていきたいなと思っているところです。

富木委員 よろしいですか。先般10月号の広報はさみに、その件について数値的には載せてありませんでしたが、解説も分かりやすく書いてあったかなと思います。その最後の行に、確かな学力の定着には、家庭教育が土台となりますと、今後とも基本的な生活習慣づくりと学習環境の配慮に御協力をお願いするというような、コメントが載っていました。これが果たしてどこまで現役の保護者の方に伝わっているのかなということも、広報を見ながら考えました。もちろん結果的には学校から保護者の方に言われていると思いますが、学校の先生方は一生懸命されているということは分かりま

すが、果たしてそれがどれだけ進展しているのかなというところも気になった記事でした。

渡邊指導主事

現在宿題、家庭学習については、各学校をどこでも取り組んでいるところですが、特に小学校については、基礎基本を上げるための、例えば漢字練習であったり、計算のプリント学習であったり、ということをしてはいますが、ほとんどの子供たちは家庭学習の宿題については取り組んできています。ところが、中学校では家庭学習の定着ってというのがなかなか厳しいところがあって、中学校の課題の一つとしてそこは今後も進めていかなければいけないというふうに思っています。

昨日、熊本県の山江村の研究視察をしてきました。そこは学力もとても高いところで、ICTも特に進んでいるところでしたが、その教育長が話をしておられたところは、やはりICTと家庭学習に力を入れていますというようなことでした。やっぱり家庭の協力は、学力向上にとってはなくてはならない部分ではあると思いますので、小学校の家庭学習の質、及び中学校の家庭学習の定着ということについて、早速本日の学力向上推進委員会でも、家庭学習について更に進めていかなければなあというふうに強く感じているところです。教育の方にも、町としても力を入れていただいておりますので、学力検査を年に2回していただいて、早速第2回目が近々に行われます。その結果を受けて、子供たちの一人一人の様子ということが把握できますし、それに向けて、AIドリルも活用をしながら、家庭においてもそれを繋げていけないかということ、これからも進めていこうと思っています。教育長が申しましたように、学力については、現状としてとてもやっぱり厳しいものがあります。ですが、今の取組を継続強化していくことで、間違いなく今の様子から見ると学力は向上していくというふうに見ています。どうぞ、また、町としても御支援を頂きたいなというふうに思っているところです。以上です。

福田総務課長

他に学力向上の推進についてはございませんか。無いようであれば、一旦、次の事項に進めさせていただきます。

中学校部活動の地域移行について、事務局から御説明をお願いします。

朝長次長

今中学校の部活動の地域移行については、全国的に問題になっているところがございます。どこの地域もどうして行こうかと、本当の模索しているような状況でございますが、波佐見町におきましては、今年度異動でまいりました中村元和君が頑張っ、この地域移行をまとめてもらっています。今現在、中学校の部活動振興会というところが受皿になっていますが、こちらにつきましても令和5年度から補助金を400万に増やしていただいて、地域移行に向けて助成金的にバックアップをしていただいております。この現在ある中学校の部活動振興会は、あくまでも中学校が母体になっていますので、そこを社会教育化するというので、中学校スポーツ文化育成協議会という新たな組織を来月立ち上げる予定でございます。最

初はアンケートで既にクラブ化の意向を示しているサッカー部と柔道部で協議会を立ち上げ、まずはやれるところから、地域移行をしてまいりたいと思います。問題となっているのは、中体連の出場についてというところが、各部が懸念されているところで、現在は東彼杵郡の中体連を勝ち上がって県大会に行くことになっていますが、このクラブ化したら、それとまた別枠のクラブの枠というものがあり、そこを勝ち上がっていかねば県大会に出場できません。そうなるクラブチームのレベルが高いところと県大会出場を争わなければならなくなるというところが、今幾つかの部では懸念として思われているようです。今年、来年度はまだしません、再来年から検討しますというようなアンケート結果も、上がってきておりますので、徐々にそういったところが解消されてくれば、全ての部活の地域移行が完了するのではないかなと思っております。

二つ目に書いていますが、外部指導者の確保と謝礼ということです。ここにつきましても、中村君の案としてお1人年間36万円という上限を設けております。1人の指導者が何時間指導をされても、年間36万円をお願いしますというところで話をしております。それと、その指導者の数につきましては、部員数が10名以内の時は1人、そこがまた10名増えたら2人と、それ以上になったら3人というような基準を設けて説明をしております。ですので、部員数が多ければ多いほど、多分指導者の方も多くなって来るとは思いますが、それでも上限として3名までとしています。36万円の3名までということを決めております。もし指導者の数が4人5人になったら、そこはクラブの皆さんで話し合わせ、別途徴収されるかどうかを各クラブで決めていただくようにと説明をしております。

それともう一つ、指導者の確保の問題ですが、先日たまたま別の会議でキャノンの人と交流があったということで、キャノンの方にお話をしたところ、キャノン今800人ぐらい従業員がいらっしゃるということで、多分指導者をしたいという人もいるだろうということでした。今波佐見町役場で120名正規職員がいますが、中学校の部活動に携わっている人が5名います。120人で5人、キャノンは800人ですので、かなりの方がいるのではないかと思っています。今後議会終了後、教育長とキャノンとそういった話合いができればなということで今準備を進めているところでございます。キャノンさんも、そういった地域貢献で地域連携が出てくれば、マスコミ的にも良いのではないかと思っています。

それと近隣の大学、例えば国際大学とかも、指導者について話合いがされているようですので、そちらについても出席して、指導者の確保に向けて研究をしているところでございます。

それとあと外部環境の整備ということですが、今後指導者がどうしてもお勤めの関係で5時以降ということになってまいりますと、今4時から6時ぐらいまでの時間帯が、指導者によっては6時から8時の指導というふうになってくる場合がございます。そういった時、グラウンドの夜間照明あたりが今後必要になってくるのではないかと思っています。そういった環境整備が、今後の課題として上がってくるのではないかというふうに思

っております。

部活動の地域移行については以上でございます。

福田総務課長

はい。それでは、中学校の中学校部活動の地域移行についてですね。意見交換をしていきたいと思います。御自由に御発言をお願いいたします。

馬場委員

先週、皆さんで壱岐の方で教育委員会の県大会がありまして、第2分科会というところに入りまして、壱岐の教育長さんがその件について話をされました。やはりどの教育委員会も中学校の部活動の地域移行の問題が1番大きな重点的な問題になっているところですよ。幸い今聞かれたように、波佐見町は少しずつですが、地域移行が進んでいる状況です。まず、先生方の4割近くの方々がまだ部活動に関わって良いというところがありますし、それから費用的にも400万円という助成金を頂いているわけですが、これは他のところにはありません。やはり、殆どのところから予算はどうなっていますかということ聞かれます。そういった意味では、波佐見町は、以前は250万円、今400万円という助成金を出してもらっているということで、非常にありがたいなと思っています。そういった中で、地域移行をしていかなければいけない。都会での地域移行はしやすいと思いますが、田舎ではなかなか難しいところが現状ではあります。やっぱりいかに指導者を探すかということが、1番の問題ではないかと思っています。先ほど、次長さんからキヤノンからという話を聞きました。私もだいぶ考えていて、町の広報紙に募集をしたらどうかとかですね、いろいろ意見を持っていました。やっぱり学校の先生たちが、卒業して町に残っている子供とか、そういった状況がよく分からないので、やっぱりスポーツ少年団とか、そういった人たちの意見を聞きながら、そういった人に問い掛けるということが必要だと思います。やはり今までは学校と部活はセットだったので、そこまで感じなかったところですが、これが切り離れてくると、やっぱりそういったところの問題が出てくるなという感じがします。いかに人材を確保するか、それにプラス予算を今400万頂いています、それをもうちょっと上げていただければ、もう少し助かっていくのかなあと思っています。なかなか苦慮されているのが現状みたいですね、市町村によっては、もうこれ以上はしないというところもあるみたいですが。ですから、今波佐見方式で取り組んでいますので、そういった意味では、1人頑張ってもらっている人がいますので、また少しでも前進するように町側にもお願いをしたいなと思っております。以上です。

前川町長

他の市町村の状況はどうなんですか。

森田教育長

かなり厳しいです。まだ殆どできていないというのが現状ですね。

馬場委員

波佐見は結構進んでいます。

前川町長

先進的には、長与か時津とか言われていませんでしたか。

森田教育長

長与さんは、完全に民間スポーツクラブが主導しているので、なかなか参考にできないというところがあって、やはり保護者負担がかなり大きくなっています。そういうところがあって、長与方式はなかなか他市町では参考にできないところですよ。

むしろ今波佐見モデルっていうか、先日保護者向けの説明会の時に、県教委の担当指導主事が来てくれて、そこをずっと聞いてくれましたが、これを今、特に郡部に関しては、このやり方の方で自分たちも進めていきたいということで紹介をしていただきました。波佐見町は、スポーツ少年団の充実ということと、そしてその連携が取れているところがあるというのが一番大きいのではないかという点では、指導者の確保が案外しやすい、あるいは体協との連携ということも踏まえた時、外部指導者の確保が結構しやすいところがあると思っています。逆に言うとその方々が離れていかなないように、確保するために、広がっていくためになると、予算的な裏づけがどうしても必要になるかなということが出てきていると思います。これまでも、保護者向けの説明会を3回、そして外部指導者関係者等々も、この3、4か月でかなりの回数行っていますので、ある程度の理解はあるだろうとは思いますが、まだやってみないと分からないところもたくさんあって、6年度7年度が一応準備期間になっています。8年度から、いよいよ本格的に動き出そうと今取り組んでいるところですが、一昨日、文科の方から、方向とすれば8年度スタートの13年度、6年間で平日の移行も含めた形を作りたいという意向を持っているという提案があったようです。私たちも令和8年度には、平日の地域移行も含めて、ある程度波佐見バージョンが出来上がっていけば良いかなということで、今動いているところです。川棚や東彼杵町さんとも連携をとりながら、うちが余りにも飛ばし過ぎていけないところもあると思いますので、2町とは連絡を取り合い、連携取りながらやっているという現状です。

前川町長

ありがとうございます。

福田総務課長

他いかがでしょうか。ご自由に御発言されて構いません。

富木委員

ここ2、3日の新聞に、先生方の希望が12%という数字がありましたが、それからいきますと波佐見町の先生方は約4割の方が関わっても良いと言われていたようです。

森田教育長

4割弱になりましたね、先生方もその時々々の転勤とか家庭環境等々の理由があられますが、今の全国平均が3割切っています。波佐見は3割を超えているという状況です。

富木委員

そういった状況の中で、本当ありがたいことかなと思っております。逆

に言えば、謝礼が年間360,000円という試算もされているようですが、指導者には時給1,600円とか、補助者には1,000円とかという金額も載っていたようです。そこら辺りの数字の落としどころが難しいのかなというようなことも、今後ありますし、保護者負担あたりが大きくなるような政策を講じていただきたいなと思います。やはりクラブをしたいという子供たちに、やはり何らかの形で取り組んでもらえるような環境を作っていただければと思っています。

朝長次長

現在、この中学校の部活動振興会に入会する時に、年間3,000円の入会金をお支払いされています。そこを地域移行する時は月1,000円の11か月11,000円という説明をしています。財源的には限られているので、指導者が増えれば増えるほど、謝礼が増えてきますので、上限を設けて指導者が増えても年間3名分までしか、謝礼は見せないと説明しています。もし指導者の数が超えるようであれば、その分はクラブで別に費用を頂くか、年間360,000円を分けて支払いをしてくださいとそういう説明をしています。まずは、それで始めてどういう反応が出てくるのかと思っています。

前川町長

まずは試行的に1回してみないと、いろいろ問題も見えて来ないでしょうからね。

山下委員

先ほどお話があった、キャノンさんへのお願いというのは、大変良いことだなと思います。今までは、指導者を知り合いづてで探しているという状況だったと思いますので、そういう大きい企業にお願いしたり、あと国際大も佐世保市と連携協定をされているみたいですので、波佐見町もそういった連携をしていただいて、もっと大学生の活用も良いのかなと思っています。町内で学校が終わってから、アルバイトをしている学生もいますので、そういった子供たちが何らかの部活に関わることができるようなになれば、そういうアルバイトではなく、学校の方でもお手伝いとかそういったことも出来て、ちょっと収入もあって子供たちとの触れ合いということも出てくるのかなと思います。そういった方向性で進めていただければ良いなと思います。

福田総務課長

他にございませんか。無ければ次のふるさとキャリア教育の推進について、事務局からお願いをいたします。

朝長次長

ふるさとキャリア教育ですが、先ほども馬場委員から話もありましたが、先週教育委員会関係で壱岐の大会で、午前中にベネッセの研究指導員の方から講演がありました。文明社会が150年続いていて、車や電車、いろいろな文明社会がこれだけ発達したという写真を見せられて、次に学校教育現場の写真を見せられて、ほぼ変わらないスタイルで昔も今も授業を行っている。これはどうでしょうかというような映像でした。本当にびっくりし、目から鱗だったような気がしました。今本当変わって来ている時

代の中で、子供たちをどう育てていきますかと問われたような気がします。その中で、今全国的に不登校が増えているということが、これはひょっとしたら子供たちからのメッセージではないのかというような言い方をされました。時代が変わっている中で、昔ながらの教育スタイルに縛っていないんでしょうかと、そこまで言われませんでした。そういうふうには聞こえたなあと感じています。その中で、今後子供たちをどう育てていくかというところで、今はVUCAの時代、予測不能な時代の中で、子供たちをどう育てていくかとなると、子供たちが自分たちで判断しなければならない機会が今後どんどん増えてくる、選択の時代が来ているということでした。その選択をする時、子供たちがちゃんと自分の力で判断をすることが必要ではないでしょうかという話がありました。まさしく今取り組んでいるふるさとキャリア教育が、そういったところをやっているところかなと思っています。先般の中学生議会もそうですが、子供たちが自分たち目線で、波佐見町の課題について、すごく良い提言をしていただきました。授業の中で自分たちで考えて、こうしたら良いのではないかとということで、まず1回役場の方に質問をもらって、それに対して今こういう現状ですよという回答を1回返しました。返した後に、波佐見町ではそういう制度があるんだとか、助成金があるんだということが分かって、更に子どもたちで再度協議をし、自分たちのプレゼンテーション資料を作り変えて、19日に中学生議会を行いました。本当に中学生なりに考えて、本当に良い提言をしていただきました。まさしくふるさとキャリア教育の方向性としては間違っていないのではないかと、私は壱岐での講演を聞きながら思っていたところです。

他にも、南小のわくわくワークデイとか、東小の支え隊というところも、各学校それぞれ特色を持ってされているところがあります。これとは別に夏休み体験講座ということも昨年から取り組んでいます。子供たちが普段体験できないような川遊びとかを取り入れて、子供たちの体験をどんどん増やしていったような状況であります。それと今年度行いました絆の日ですが、これも中学生からの発案でした。給食食器のワレニッカが給食センターにたくさん在庫があって、そこを中学校に投げたところ、子供たちからの意見で能登半島の震災の寄附と同時に、そういった寄附へのお礼ということで、配るということで、すごく良い取組ではなかったのかなと思っています。それと同時に、会場内のごみ拾いも子供たちから発案だったというのを聞きして、何ができるかということ自分たちで考えて、すごく良い取組をしているかなと思っています。今後とも、この絆の日の取組は充実を図っていかなければと、教育委員会としても取り組んで広げていかなければと思っています。以上でございます。

福田総務課長

はい、ありがとうございます。教育長から何か追加の説明等ありますか。

森田教育長

ここに掲げているとおりで、今後波佐見高校生も巻き込んだ形で、小中

高連携の部分で何か活動ができないかなと思っています。永田校長さんもいろんなアイデアを持っていらっしゃって、来年度から1単位時間を50分から45分に変更して、時間割の中に波佐見地域貢献というプログラムを取り入れていきたいということです。様々な町のイベントのサポートに行きたいし、自分たちの方でも積極的に地域に貢献し、波佐見町にお礼をしたい、あるいは波佐見町で頑張っている子供たちということで小中高連携の部分で期待を持っているところです。このふるさとキャリア教育は、一つの波佐見町の特色ある教育活動として積極的に推進をしていきたいと思っています。以上です。

福田総務課長

はい、ありがとうございます。それでは、自由に意見交換をお願いしたいと思います。はい、どうぞお願いします。

前川町長

良いでしょうか。南小わくわくデイとか、東小学校は東っこ支え隊がありますが、中央小は何かやっているんですか。ちょっと確認だけですけど。

渡邊指導主事

中央小は、地域との連携ということで老人会との触れ合い交流を行っています。5地区ありますが、その老人会に来ていただいて、例えば鬼木地区と2年生との交流を進めて、そこでは例えば七夕飾りを作ったり、金屋地区では5年生と連携して米づくりを進めているというような繋がりを持っているのが今の中央小です。

馬場委員

先ほど次長が言われたことと関連して、先ほど言われた教育が150年変わっていないということを、私はある中学校の先生から聞いたことがあります。他所から来られた先生が、日本ではまだこういう教育をしているんですかというのを言われました。我々は、それが当たり前だと思っていましたが、外国ではそうではないということのようです。日本はもうある程度頂点まで上り詰めて下降線の時代にある中で、今の教育ではそれでは合わないということを感じられているわけですね。私たちも、教育というものが、本当様変わりしていく時代に入って来ているということ、この前の壱岐の大会での講演で感じたわけですね。特に、三角形の形を書かれて、1番頂点の部分、学力だけで人を判断して、その下にある大きな部分の潜在的意識というものを評価されていないというのが日本の状態じゃないでしょうかということ、この前のビデオを見させてもらって、ショックを受けました。やっぱり子供たちは、いろんな潜在能力を持っているわけですね。今は、まだ学力だけで評価をしてしまうところがあるのではないかと感じています。だから、いろんな面で総合評価をしていく時代に入ってきて、その子供がどういうふうに活躍をするのか、学校の時は大したこと無かったけど、社会に出て本当に立派になった人もたくさんいます。そういった見方をできるような評価をしていくということが、あったのではないかと思います。

11月中頃に、県の社会教育の会議で私が入った分科会では、やっぱり子供たちに、もっと主体性を持たせなさいといけないと思いました。子供たちが考えていることは、今まではほとんど大人がやったことをこうしなさいということが多かったと思いますが、もっと主体性を持たせていくと、先ほどの中学生議会の発表プリントを見させてもらいましたが、中学生ってすごい発想するなというのを感じました。やっぱりもう少し子供たちに主体性を持たせてやっていく。壱岐の講演会で、ある学校で子供たちが授業をしているビデオ見てもらい、びっくりしました。先生がこっちにいて、最初から子供たちが授業しているわけです。何人か分かっている子が前に出て、それに合わせてICTを使って先生が調整していました。凄いなと思いました。やっぱりそういうふうに時代が変わっているのに、教育の現場が変わっていないというのは、どうにかしないといけないという状況が、今出てきたんだなということを感じました。やっぱり学力も高いところは、とにかく子供たちの自分でしようという気持ちの方が強いところが学力も高いということを見させてもらって、聞かせてもらいました。もう少し子供たちに、そういう環境、場所を作るようにしなければいけないと思いました。そういった意味では、ふるさと教育の推進ということでは、波佐見町はいろいろやっていると思います。これは非常に良いことだと思います。これが今後、かなり役に立ってくるのではないかなと思っております。そういったことを、ここ1か月で本当に私たちの考えを変えていかなければいけないという時代が来ているんだなと感じさせてもらった次第でした。感想を述べさせてもらいました。以上です。

前川町長

感性とかを育てることが、やっぱり必要なんだろうね。先ほどとちょっと矛盾するかもしれませんが、学力向上の中で、学力向上のテストの点数だけじゃなくて、他のいろんなもの、いろんな造形であったり、いろいろあるじゃないですか、そういったもので秀でた能力を伸ばしてやるとか、評価をしているとか、そういった教育も必要なんですよ。

馬場委員

普通の人には、学力の点数だけで見てしまうので、どうなっているんだと突っ込まれること多いと思いますが、本当はそうじゃないんだよということを、やっぱり見ていかないといけないのかなっていうことですね。はい。

富木委員

先ほど言われたような、見えない学力、能力、小さな芽、些細な気づきを大事にして、褒めて育てるというようなことによって、大きく育っていくものだろうと思います。そうして考えていけば、波佐見にもいろんな能力を持った子供たちがいると思います。ファーストペンギンとなれる候補、いるんじゃないかなというなことで、わくわくして先週の研修を終えて帰ってきました。本当に良い話を聞けたなと思っております。

山下委員

先週の研修に参加させていただいて、先ほどおっしゃったように、車は

変わった、いろんなものが変わっているのに、学校だけの授業スタイルが変わってないということ、ある20代の人にちょっとお話をさせてもらいました。それを話したら、自分たちの時もやっぱりそうだったけど、学校の先生が授業をしている時、分からない子がたくさん周りにいた。その子たちにずっと教えることを自分がしていた。そうすることで自分も分かるようになったし、自分が分からないことは、その上を目指している子に聞いたり、昼休みとか休み時間に聞いて分かるようにしてきたということでした。分からないことを、そのまま学校の先生が進めているから、子供たちも分からなくなるので、自分は先生から何をしゃべっているんだみたいな感じで怒られたけれども、一人一人分かるように説明していったら分かるようになって、学力もそのときは向上していったってことを聞きました。なので、そういう先生だけで教えるのではなくて、子供たち同士で教えあう授業をすとか、進めていくというのも、また一つのやり方じゃないかなあというふうに感じました。そういった話が丁度できる機会があったので、このようなお話を反対に聞かせてもらって、今はやっぱり時代が変わっているんで、いろんな授業スタイルがあっても良いのでないかと感じました。

渡邊指導主事

山下さんがおっしゃったように、大きく教育も変わっていくと思います。今子供たちがランドセルの中にいろんな文房具、教科書、ノートを入れてやってきていますが、将来的にはタブレット一つ持って登校してというふうな形になっていくんだろうなと思います。現に昨日視察に行った学校では、やはりタブレットが中心で、最後振り返りもタブレットでまとめて、まとめたものが前の大きな画面に映し出されるというスタイルの授業でした。ですから、教科書やノートはありましたが、ほとんどをそちらは活用されず、タブレットでいろんな情報を集めて、ここはとても大事なところだからこっちにまとめてみようとか、図鑑などを調べながらノートにまとめていくという子もいました。だから今、多様な学びというのが、これからつながっていくと思いますので、そういう教育の在り方、授業のスタイルっていうのもやっぱり我々としては考えていかなければいけないなあというふうに思ったところです。一方では、その学校では基礎・基本、例えば漢字の力とか計算力とか、どうなっているのかということ質問したところ、漢字検定、計算のそういう検定も行っていきますということでした。ベースの基礎・基本というところもしっかり押さえていながら、新しい学びのスタイルということも、考えていかれている、まさに今から進んでいく教育の在り方なんだろうなあというふうに思ったところです。

森田教育長

中学校は学び合いということで、もう10年近く取り組んではいらっしやるんですけど、本当にその学び合いが、分からない子供たちが分からないと言えるとか、あるいはそれをきちっとした関係性の中で高まっていつているかという、まだそうならないようです。4人集まれば1人の子が自分の意見だけ言って、残りの子どもたちはただ追認するだけとか、そう

いうお互いの切磋琢磨する部分がないというところが現状のようです。学び合いになっていずにまだ伝え合いのレベルで、そこが伝え合いから今度は教え合いって、次が学び合いに持っていかなくてはいけないんですが、まだ伝え合いで終わっているというのが今の中学校の現状です。でも、小学校もそれを参考にしながらしています。今小学校中学校とも授業スタイルは、まず問題が出ます。最初に自力解決には必ず時間設定します。その次はグループ解決をやって、最後に全体解決として振り返りという授業スタイルはどこの学校でもどの教室でも行われてはいます。しかし、学び合いの部分、お互いで高まりやっていく部分というところが、どうしても弱いというところがあって、分からない子はずっと分からないままというところがあるのかもしれませんが。これは学力向上につながっていきませんが、低位・中位の子供たちをどうサポートするか、低中の子たちに今日の授業が分かった、楽しかった、面白かったということにつなげていくかということが大切だと思っています。1時間1時間の中で、そういう成功体験・達成感というのを、味合わせるということが1番の課題であろうということには分かってはいますが、そうすると今度は先生方の指導力、授業力というところに、次は変わってくるという、すごく難しいところがあります。そういう点でやっぱり教育というのは、なかなか時代が変わったとしても前に進まないのかなと思っています。究極は先生方の指導力に掛かってしまうところがあるので、なかなか難しいところもあるのではないかと感じてはいるところです。

山下委員

中学生議会の資料拝見させていただきましたが、先ほど言われたように本当に素晴らしい提言をされているなと思いました。こういったことを毎年中学生がしてくれたら、また役場の方でも考えることに繋がっていくのではないかと思います。子供の視点から見る波佐見町と大人から見る波佐見町っていうのはまた変わってくるので、ずっと続けていただければと思います。大変すばらしい議会内容だったなと思いました。

福田総務課長

教育長どうですか。

森田教育長

実際今度、中学生議会で提案があったレシピを、みんな食堂の中で提案できないかなということで今中学校と協議をしています。ただ平日でもあるし、受験学年でもあるので、全員はできないかもしれないけれど、子供たちのアイデアを使った子供食堂への提供ができないかなということで、今担当課と学校の方でも協議をしています。そうすると、子供たちの発案提案が町を変えるということになれば、参画意識が小学生中学生高校生にも芽生えることができるし、それを受け入れるこちら側、大人側、役場側の姿勢構えというのも大事になっていくだろうと思います。今後も状況を見ながら、続けていけたらなということを考えます。

朝長次長

中学生議会は12月ぐらいから、波佐見テレビで放送されるのではないかと

などと思います。無断で使用している写真等があったので、今中学校と波佐見テレビで協議をされている段階だと思います。それが終わってから流されるのではないかと考えています。

それと先ほどありましたトップバッターの、いむらチーム、2年2組の方がされた古民家を生かしてカフェをという提案の中で、自分たちで考えたレシピで、米粉を使った料理を、実際家庭科室を使って自分たちで作って、その写真を使われていました。そのレシピを子供食堂の方で使ってもらえないかと話をしています。もう一つ、折角なので、本当に1日カフェを開いたらどうかということでも思っています。今のところ西の原の833で、そういうのはできませんかということ、担当の方今投げかけています。丁度受験を控えていることもあるので、その受験が一段落したところで、実際子供たちに1日カフェというものを、833でそのレシピで体験させてもいいかなと思っています。ちょっとそこら辺りは、まだ今後詰めていかなければいけないところは出てきますが、値段を幾らにするとか、まだ〇〇円のところもあったので、そういったところも具体的に幾らで設定したらどうなるかまで考えさせて、1日カフェができたかなと思っています。

福田総務課長

ありがとうございます。それでは、その他の項で様々な状況の説明がありますので、事務局から引き続きよろしくお願いします。

朝長次長

その他ですが、不登校対策につきましては、各学校でどうしても学校に馴染めない子がいらっしゃいますので、スクール・ソーシャル・ワーカーの方が家庭訪問等しながら少しでも学校に近づけていく対策をされています。また、全く家を出られない子供さんには、博物館や美術館などにまず連れ出すという取組をここ何年目かしており、まずは家から一方出そうという取組をしています。そこから、文化会館まで来られて、次に学校まで行く、学校まで来られたけど、まだ教室には入れないなど、そういった子供たちを、少しでも学校に近づけていくような取組を、学校とスクール・ソーシャル・ワーカーと一緒に進められているところです。

ICTにつきましては、先ほどもありましたけど、タブレットを導入して5年目を迎えます。来年度タブレットを、県の共同事業で共同購入して更新を行う予定です。また、AIドリルとして、今EライブラリーというAIドリルを使っていましたが、今後はベネッセのミライシードというAIドリルに変更したいと考えています。先ほどありました年2回学力調査をしています、ベネッセの学力調査を使っています。そこで出たデータ、この子はこういう分野が不得意というデータをミライシードというAIドリルがくみ取って、その子にあった問題を提供できるようです。今年度、年2回の学力調査とミライシードで、学力が向上してくるのではないかと考えています。

あと人員体制の充実ということについては、波佐見町は学力向上支援員さんや特別支援教育支援員さんが19名いらっしゃって、これは多分県下の

中でもトップクラスじゃないかなというふうに思っています。それとICT支援員さん、スクール・ソーシャル・ワーカー、あとスクール・サポート・スタッフ、学校サポーターなど、そういった学校を取り巻く人的体制というのは非常に充実しているものがあるのではないかと考えています。

それと子育て世代にPRできる政策ということで、給食の無償化を先立って行っています。今後考えられるところが入学援助金、通学補助金というところが、今後考えられることではないかと考えています。

また、図書館の機能の充実ですが、今年町政懇談会を行った折にも、かなり多くの方から、この図書館の充実という御意見も頂いております。今図書館の方では、教育委員会がこちらに来たスペースを利用して、図書館の作業スペースに変わっています。今まで、ちょっと図書館の中で本が小積みになっていたところがありましたが、それをこちらの方に持ってきて、図書館の本来のスタイルに持ってきている状況でございます。今後はそういった機能の充実というところで、図書館職員も今年度から1名増員を行っていますので、今後はソフトの充実というか、もうちょっとポップとか何とか、そういった図書館の外に図書館を知らせるようなことをしていきたいと思っています。今後とも図書館の職員さんとも情報交換をしながら、進めてまいりたいと思っています。

最後にPTA支援ということで書いていますが、子供たちの教育について、家庭の支援というのもございます。今後PTAとの連携を深めながら子供たちの教育を一緒になって進めていけるというようなことをしていかなければいけないと思っていますところですので。取りあえず、以上でございます。

福田総務課長

はい、ありがとうございます。その他の項になりましたので、まずは御意見等ございましたら、確認事項も含めて、ご自由にご発言をお願いします。どうでしょうか。

前川町長

PTA関係ですが、全国ではPTAが無くなったり、あるいは全国団体から脱退だとかという話がありますが、本町の状況についてお知らせ頂ければと思います。

渡邊指導主事

4小中学校ある中で、PTAに加入をしていないというご家庭はございません。協力的な保護者、なかなか協力をしていただけないというところは勿論ありますが、全てのご家庭はPTAの方に参加をしていただいて、活動をしているところですので。

福田総務課長

はい、他に何かPTA関係とかありますか。その他、その他の項で何かございませんか。

馬場委員

一つ、子育て世代にPRできる施策で、給食の無償化をしていただいています。私は大変助かっておられると思います。非常に良いことなんで

すが、更にといったらおかしいですが、以前からお話をさせてもらっているとありますが、入学に対する補助というのも、1年生とか中学1年生になると、かなりの経費が掛かるということです。金額じゃなくても、物でも良いと思いますが、そういったところの支援がもう少し出来ていければなということを考えています。今どこの市町村も子供に対しての教育、施策をいっぱい立てられております。その子供たちが、今後の未来を、日本を背負っていくわけですが、その子供たちが立派に成長するように、また子供がたくさんできるようにということで、そういった支援体制を波佐見町でも作って行ければ良いかなと思っています。例えば、入学祝い金とか、あるいは島原市みたいにランドセルをプレゼントするとか、そういった親に対する支援をすることによって、波佐見町のPRにもなり、他所の市町村から転入してくる人も、少しでも居るんじゃないかと思っています。給食無償は結構広まって来たと思いますが、更に目玉的な施策を行うことによって、アピールしていければ良いのかなと思っています。やっぱり人が入って来ないと、減るばかりでは、どうしても先細りになってしまいます。そういった残れるように、また入って来られるような施策を、ひとつしていただければありがたいなと思っています。

P T Aに関して、私も思っていますが、本当コロナを機会にパッと活動が無くなってしまったというか、1回無くなってしまえば次に復活させるのが本当に難しい、相当なエネルギーがいる状況が続いているのではないかなと思っています。ですから、いつも思うのは、子供がいる時代だけでも、とにかく一生懸命子供と親と先生と一緒にいるというP・T・Aの、三つの努力が必要になってくると思うわけですが、そこがなかなか今出来ていないし、個々になっています。しかし、親の人たちも同じ世代なので、同じ悩みを持っている人がたくさんいると思いますが、子育てに関する悩みを共有化する場所が、今のP T Aの中に無いというのが寂しいところだと思っています。もう少し、形だけではなく、そういった活動を通して、少しでもお互いの不安材料を取り除くような活動に戻ってもらいたいなという希望があります。以前のようなP T A活動が、どこもやられていないというのが現状じゃないかと思っています。寂しい限りですけど。だから、やはり親がまずそういうふうには思わないと、そういう活動も出来ないんだらうけど、そういう活動する環境を作っていただきたいということを、私は今P T Aに対して思っています。以上です。

山下委員

入学援助金についてですけれども、例えば入学祝い金を幾らとか、物であつたりとか、それは保護者さんにとってはとても嬉しいことだと思います。一方、例えば、前の年に入学をされた方と余りにも極端な差があれば、ちょっとどうかなというところもあるので、そのあたりは考慮しながらしていただければ、助かるなあと感じます。保護者の立場からしたら、極端に差があつたり、この年からはこれだけですよということがあるよりも、例えば子供の医療費の控除とかが、少しずつ年齢が引上げられてきたような感じでしていただければ助かります。社会の事情に合わせて、少し

ずついろいろなものが高騰してきているので、少しずつ波佐見町も豊かになってきているので上げますよみたいなところ、いろんな金銭的な問題もどうかなというふうになんとなく感じたところでした。でもしていただければ、ありがたいなとは思っています。

福田総務課長

他にございませんか。

富木委員

先の衆議院選挙で、国政が拮抗している中で、予算的なものも大きな問題が出てきているのかなと思います。町の収入に対しても、いろんなところで頭を抱えるところがあるのではないかと思います。そういった中で、いわゆるベーシックサービスというんですかね、最低必要な教育、医療ですね、そういった補助が減ったので削るとかではなく、やはり使うところには使っていただきたいという気持ちはあります。将来子供を育てるところであれば、先ほど言ったように、給食の無償化あたりも国がどうするかというところで大きく変わってくるのかなというところもあると思います。

また、103万円の壁というようところが、毎日大きなニュースとして出ていますが、子供たちに、お金を掛けるような、やはり町づくりをしていただければということで、併せてお願いしたいと思っております。

不登校の関連するところで、困窮世帯の中で28%の子供たちが、学校が楽しくないというデータも出ていたようです。町内にどのぐらいそういった世帯があるか分かりませんが、そのうちどのぐらいの子供たちが、そういったことを思っているのか、そういった学校に行きたくないというような条件を、少しでも払拭頂くようなことをお願いできればなと思っております。

前川町長

確かに国の方では103万の壁です。基礎控除を170万まで引き上げようとしています。仮にそういった条件であれば、国は6兆とか7兆の減収ということのようです。これも本当に大ざっぱな数字ですが、県が示した判断に基づいて、うちも同じ基準で出したらどのぐらい減収になるかという数字を税務財政課に確認をさせたところ、町民税が6千万から7千万ぐらいは減ってくるだろうということでした。ということは今給食無償化に掛けている費用が5～6千万です。その分の財源がいつに飛んでしまうという状況です。確かに働く人の意欲を無くさないようなこととか、いろいろやっているようですが、その財源が地方財源に及ばないような補填をしっかりと国にしてくださいという要望も国に行った際にはしています。併せて、知事会の方でもされたようですが、町村会なり、あるいは市長会でも、国の方にはそういった働き掛けをしないと、そもそもの原資が無くなってしまふと、いろいろな制度や支援が厳しくなってしまうという状況がございます。そう言いながらふるさと納税の活用ということも、寄附の中では、やはり子供たちに対する支援という寄附者の意向が非常に多くございますので、そういったものに活用はしていくべきだと考えており

ます。ふるさと納税の活用がですが、本年度予算で言いますと大体8億から9億、前の年の寄附額の中から今年度の予算に入れて使っている状況です。そういった状況で、いろんな要望がございますので、重要度あるいは緊急度とか、そういった優先を考慮しながら、今後の波佐見町の若い世代と申しますか、子育てや人材育成ということに繋がっていきますので、そこを見極めながら制度的なものは考えていきたいなと思っております。以上です。

森田教育長

不登校絡みで良いですか。不登校あるいは不登校傾向にある保護者の方々がサークルを立ち上げられています。名前が「くるり」ということで、チラシ等々を町内4校の保護者に配って欲しいということの依頼で来られましたので、来週2日付けで4校とも家庭数で配布をしていただくという形でやっております。ただし、渡部指導主事の方から、これまでそういうサークルあるいはフリースクール、フリースペース等々を立ち上げた時に、その中の話題、課題で、どうしても学校批判や担任批判、教育委員会批判で終わっている形があり、不登校の改善には繋がっていないような内容であれば、余りよろしくないの、今後は私たちと協働して情報共有をするような、活動を是非お願いをしたいということは伝えております。それができなければ何の意味もありませんよということで伝えておりますので、情報提供をしておきます。

今ここに次長が書いているところ以外で、例えば来年度は国民文化祭があるので、そのために講堂をどういうふう改善をしていくか、特に空調等のことも含めて考えています。先ほど町長から挨拶にあったバス路線については、実際中学生の保護者面談の中で、まだ対応策について具体的には聞いていませんので、やはり不安だとか、だったらスクールバスがある学校に通わせる必要があるかなあとか、ちょっと厳しいけど佐世保の学校の方にちょっとチャレンジしてみようかなという意見が3~4件あったということは中学校から聞いています。確かにそれはもう当然だろうと思っておりますが、今後具体的な手立が取れば、その不安等々も随分和らいで行くのではないかと申しております。

もう一つ、ちょうど開校50年を迎える学校が、中学校と東小学校とかが来年再来年あたり出てくるところがありますので、同窓会あたりと連携を取りながら、思い出に残る、意義のあるそういう記念事業ができればなあということをお申しております。

最後に、これは教育委員さんたちの方には提案をしましたが、今やっぱり不登校とか、子供たちと先生方の関係性だとか、あるいは先生たち同士の働き方改革や、人間性構築というところの部分で、年度の始業日は今までは波佐見町の規則では4月6日が新年度の始業日でしたが、これを2日間ずらして4月8日にしたいと思っております。これは例えば新年度の日程によって4月1日から4月6日までに土日が挟まった時、3日間しか準備期間がないという年度があります。そうなるとなかなか会議をしたり、引継ぎをしたりとか、十分な打合せが出来ないまま、新年度を迎えた時に、

関係性が構築できていないという現状があるので、現場からの強い要望で、是非4日間5日間の準備、打合せの期間が欲しいということで、6日を8日にずらしてもらえないかという提案があります。同時に、本町はふるさとキャリア教育を充実するために絆の日を行うこともあり、時数確保とか自然災害等々で臨時休校が今後増えることもあるので、2学期の始業を9月1日ではなく、8月26日から出来ないかということも学校現場から出されています。今教育委員会の中でも提案協議をし、可能であれば規則改定をして、今から12月1月あたりにPTA、そして学校運営協議会等々に説明をしていって、年度変わってから、それができないかなあということを考えています。不登校対策や関係性の構築、先生方の働き方改革等々を見据えた中で、この提案ができたかなということ。県内と言うと4分の1ぐらいの自治体が、両方あるいはどちらかを取り組んでいるというのが、県内の今の状況であります。追加としては以上です。

福田総務課長

ありがとうございます。それでは今後の教育課題について、全般的な御意見等頂きたいと思います。漏れ等ありましたらお願いいたします。

山下委員

不登校について保護者サークルができるということでしたけれど、その中で、不登校の親に対する支援の場所というところが、今は無いと思っています。そういったことを含めて議員さんの方に、不登校児童だけではなく保護者が集える居場所みたいな、自分たちでの情報提供とか、子供と保護者が最も必要なものは今何かというような考える場所とか、そういったのに繋がっていったら良いなと思います。学校批判の場所とかではなく、自分たちがどうしたら子供たちが行けるかなとか、悩みを保護者同士で伝えられるような、ここに来たらホッとするよう居場所づくりをしていただければなと思います。

森田教育長

今の部分も、とっても私たちも大事にしていきたいなと思っています。ただ、集まって不満や辛さを吐露し合うことはとても大事だとは思いますが、それだけでは手立て、改善策が見えてこないもので、次に行かないところがあるようです。今山下委員さんおっしゃったように、そこに例えば、専門家の先生をアドバイザーとして同席してもらおうとか、そういうことをやっていかないと高まっていきませんよということの提供もしています。批判だけで愚痴だけではなく、学びという部分でいうと、指導者の方を入れるような研修、あるいはそういうサークル的なものも必要ですよということの提案もあわせて行っているところです。例えば、川棚にいらっしゃる西村先生とか、スーパーバイザーをそこに呼ぶとか、あるいは児関係者とか、今うちに来られているSCの樋口先生は前児相所長さんですから、その方の中に入れるとか、そういうことをやっていかないと、学びに繋がっていかないとことは思っています。辛さを出し合うと同時に、そういう学びができるようなサークル活動については、私たちも積極的に支援をしていきたいということもあって、今回PTAの全家庭にチラシを

どうぞということで行ったところです。

福田総務課長

はい。もう全体的な質疑、自由な意見の場となっております。どうぞ御自由に御発言されて構いません。

渡邊指導主事

不登校対応について、代表の方がそのチラシを持って来られた時に、いろいろと話をしたんですが、今あったように、それぞれの立場で協力しながらやっていきたいと思いますということと話しています。今教育長からあったように、他の市町では学校批判、担任批判についていっているようです。どうしても担任の先生とか、学級経営がうまくいってないから、もう行きたくないとなってしまって、そこで批判的なところが出てくるので、そこは協力しながらやって行くという共通認識を持っています。でも最終的なゴールとしては、我々教育委員会・学校は、学級で学校で勉強するというところを最終的なゴールに持っていますということと話をしたところ、代表の方もやはり、そこをゴールとして持っていきたいですということだったので、そこはひとつ強引に背中を押すというばかりではないんですけども、その子の状況に応じて、そこを目標にしながらやっていきたいと思いますねと話をしているところです。ただ、サークルだけの取組という形ではなく、みんなで一緒に、例えば私が入って話を聞くでも良いし、ソーシャルワーカーであったり、いろんな専門的なところの情報共有というのもありますよねと話したところです。お互い手を携えながら進めていけたら良い形にできないかなと思っています。

ちなみに、現在不登校が全国的、県下もそうなんですが、毎年最高を更新をしているところが今の現状です。波佐見町も、やはり令和3年、4年は20人程度でしたが、令和5年度は30人を超えました。そこで各学校の取組も一生懸命取り組んで頂いて、令和6年度については、また20人台に落ち着いているところです。不登校だった子が、また学校に復帰をしているという現状もあります。ですから各学校の取組が功を奏しているということもあるかと思しますので、そういったサークル的なところも活用していきながら、1人でも学校復帰ができるようにということをお願いしているところです。

山下委員

民間から立ち上げられてされるのは本当に今まで無かったことなので、やっぱり何かありがたいことだなあと感じていますので、これがずっと良い方向に進んでいくようにしていただければと願っております。ありがとうございます。

福田総務課長

はい、その他ございませんか。

前川町長

直接的にはちょっと関係はないと思いますが、御覧のとおり庁舎の改修がどんどん進んでまいりまして、今は外構工事といいますか、駐車場整備に入っております。隣の昔でいうところの新館、今では旧館になってしま

いますが、そちらも改修が進み、子供家庭センターとして生まれ変わります。目標としましては来年の2月21日に開所するという事で進めております。現在担当課の方で、いろいろ一生懸命頑張ってやっております。今までは、生まれる前までは母子保健、生まれてからは母子福祉、学校に行ったら教育委員会とそれぞれのセクションに分かれていましたが、ある程度一括してそこで相談業務であったり、いろいろなものをやれるような体制を今構築しているところです。今しばらくお待ちを頂ければと思います。内覧会も行うようしていますので、ある程度完成した暁には御覧頂ければなど思っております。

今の教員不足とかいろいろ言われていますが、その辺りの問題はどんなんでしょうか。

森田教育長

もう全国的に、県内でもそうです。ありがたいことに本町ではまだその実例、事例は起きておりません。必死にお願いをしております。加配とか臨採は普通入れ切れない状況にありますが、加配も全て学校の要望どおりに、全て入れていただいております。臨採等々についても、あるいは病休とか育休代替等についても、もちろんこれは町の理解もあるんだろうと思いますが、欠員になることは今までほとんどない状態で進んでいるところです。

ただ、もう間違いなくその流れは起きてくるんだろうと思います。現実的に県の方には、欠員補充員はほとんどいません。もう全くいない状況です。もちろん成り手不足もありますが、支援学級と通級指導教室が増えていますので、そこに本務者を充てていくとなると、どうしても全体的に教員の数が減っているように見えます。そこに成り手がいないというのもあるって、どんどん欠員状態になっているのが実情です。そして、やはり今のブラックのイメージで、先生になりたいという人は圧倒的に減っています。御存じのように倍率もやっと1倍になるか、ならないかぐらいになりました。小学校なんかはかなり厳しい、本当にいなくて広き門になっているところがあるという状況です。なかなか難しいかなと思います。

教頭先生になる方もほとんどいません。そうすると、ずっと校長先生がそのまま校長として残るようになってもらわないといけないところがあって、処遇も含めて大変厳しいので、教頭にまず成り手がいないというのが今教育界が抱えている人的な面では最大の課題です。

前川町長

大変ですね。

福田総務課長

他にどうでしょうか。

山下委員

前回の教育会議の中で、公式LINEの活用についてということで、ちょっと提案をさせていただきましたが、最近教育委員会からも、学校指導員の募集とか、学校給食調理員の募集など、町内の放送でされていますが、こういったものを公式LINEのどこまで活用ができるのでしょうか

か。

福田総務課長

私の方から回答させていただきます。実は総務課の方が災害関係の情報発信を担っていますが、その関係で今防災無線、戸別受信機まで放送ができています。実は、そういったLINEとかメールと連携するシステムを今年構築しています。したがって、そのシステムが2月末から稼働させようと思っていますが、防災無線で流れる情報をLINEでも流せるように実はなります。例えば、登録をカテゴリー別に登録をすると、子育て関係は来るとか、学校関係は来るとかできます。LINEで皆さんピクピク鳴って結構面倒くさいなと思われるでしょうが、そこにフィルターを掛けて好きな情報だけLINEで頂くようなことを、今システム構築をしていますので、少し一歩進めて行こうと思っています。蛇足的になりますが、災害等で大雨警報とか緊急避難を掛けますと言った時に、防災無線しか今はありませんが、登録された方には電話が掛かってくるようになります。電話を取ると、危ないですから避難してくださいとか、自動音声が流れるようになりますので、そういったところもちょっと進めている状況でございます。以上です。

富木委員

何月でしたか、宮崎の日向灘沖で夕方4時半ぐらいに地震がありました。スマホとか町の防災無線も鳴りましたが、我々はどこで地震かなということが直ぐに分かりますが、子供たちは学校にいる間は、建物の中に入りますので安全だと思えますが、下校時などは、どこでどういうふうな地震が、どのぐらいの大きさであるのかということが、多分情報としてつかめないだろうと思えます。そういった中で、地震が発生しましたということだけ流れて来ていますが、例えば、宮崎の方であったとか、福岡の玄海灘が震源地であるとか、震源地によっては、こちらの方まで揺れてくるとか、そんな情報を流せないのかと思っていましたが、いかがでしょうか。

福田総務課長

そうですね、J-ALERTという仕組みで今鳴らしていますので、そのJ-ALERTの中で、どこどこ震源地という情報が飛んで来ないですが、そこら辺りは県とかに尋ねてみましょうかね。何か情報が入ればですね、震度は幾らでしたとか放送は流れてきますが、震源地はどこどこですとか、というような設定があるかもしれませんので、その辺りも踏まえて検討調整してみたいと思います。

協議事項は終了しましたが、今後引き続き教育委員会でいろんな御協議をしていただき、町長部局の方にも、お伝えをしていただければと思います。本日の総合教育会議で意見交換した内容については、町長部局と教育委員会が共通認識として、本町の教育行政の推進に当たっていくことになっておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

それでは、閉会に当たり、森田教育長から御挨拶をお願いいたします。

森田教育長

今日はありがとうございました。長時間にわたって町長、総務課長と意見交換ができたこと大変意義あるものとしてうれしく思っております。話題の中にもありましたように学校教育に限っても、様々な課題があると同時に、社会教育あるいは地域学習、地域活動等についても、やっぱり少子高齢化とか、あるいは価値の多様化とか、ライフスタイルの変化などによって、従来とは違った課題等々が山積をしているのが今の現状ではないかなということを思っております。その中で私たち教育委員会はどのようなサポートを、どのような支援を行っていけばいいのであろうかということ、定例あるいは緊急の会議の中で情報共有をしながらやっていっているところです。基本的なスタンスとして、私たちは議会等でも話はしていますが、私はトップダウンとボトムアップ、教育委員会と学校の融合がない限り、良いものは続かないと思っています。トップダウンだけでも駄目だと思し、ボトムアップ的なものだけでも駄目だと思いますが、そこに融合性があった時に、初めてより良いものが継続的に出来上がっていくんだらうと思います。トップダウンとボトムアップの融合はとても大事にしたいなということを思っていると同時に、もう一つは、あくまでも教育委員会は、頑張っている学校や団体や地域の応援者、支援者であり続けたいということも思っております。自走する学校、団体、地域を積極的に支援する教育委員会でありたいなということを思っているところです。そのためには、町長部局以下、役場内他課の関係や関係機関との連携等々を踏まえながら、教育のまち波佐見として選ばれる、あるいは人材育成こそが、まちづくりの根幹であるということの基本的なスタンスの中でやっていきたいと思しますので、今後とも御支援御協力、御理解のほどよろしく願いを申し上げます、閉会の挨拶とします。本日はありがとうございましたお疲れさまでした。

福田総務課長

以上をもちまして波佐見町総合教育会議を終了いたします。御協力ありがとうございました。